

神奈川県相模原市の情報モラル教育の実践

ー『情報モラルハンドブック』を中心とした情報モラル教育の在り方ー

井手哲（相模原市立中央小学校）・小島義浩（相模原市立もえぎ台小学校）

概要：相模原市小中学校視聴覚教育研究会メディアリテラシー教育研究部では、「児童の情報活用能力の育成」をテーマとし、児童が高度な情報環境の中で、安心安全に生活できるよう情報モラル教育を推進すべきであると考え、研究を進めている。市内全小中学校に相模原市が作成した「情報モラルハンドブック」を配付し、発達段階や児童、生徒の実態に合わせて、誰もが情報モラル教育を行なえる環境を整えてきた。子どもたちを取り巻く情報環境は常に変化しており、今年度、様々な変化に対応するために情報モラルハンドブックの改訂も行っている。それらの実践の成果や課題について報告する。

キーワード：情報モラル相模原プラン、情報モラルハンドブック

1 はじめに

児童を取り巻く環境が複雑化し、情報の発信受信が可能な機器も多様化している。特に児童の携帯電話、スマートフォンの所持率は年々高くなっている。このような情報環境の中で、児童が安心安全に生活できるようにするためにも情報モラル教育の必要性は高まってきている。

<児童を取り巻く情報環境>

- ① ネットワークに参加する機会の増加
- ② 受信者から発信者へ
- ③ ネットワーク上のトラブルの顕在化

その現状を踏まえ、相模原市では『情報モラルハンドブック』を作成し、平成25年度に市内全小中学校に配布した。相模原市小中学校視聴覚教育研究会（以下、相視研）メディアリテラシー教育研究部では、情報モラルハンドブックを中心に、情報モラル教育の在り方について考え、様々な実践に取り組みながら、研究を進めている。情報モラルハンドブックだけでなく、さまざまなアプローチを考え、多角的に「情報モラル教育の在り方」について研究している。

2 研究の方法

（1）調査対象および調査時期

相視研メディアリテラシー教育研究会の理事の所属する小学校で、平成27年度に研究を行った。

（2）研究内容

・『情報モラル教育』の取り組みについて
市内の学校において、どのような位置づけで情報モラル教育を行っているのかなどの情報を交換し、だれもが情報モラル教育を実践できる風土を作っていく。

・情報モラル教育についての様々な実践

情報モラルハンドブック以外の実践を持ち寄り、より児童の実態に合った情報モラル教育の在り方を考える。

◎『情報モラルハンドブック』

相模原市では学習指導要領に対応した「情報モラル相模原プラン」を作成した。これは小中学校9年間を見通した系統性、継続性のあるカリキュラムになっている。発達段階に応じて「心をたがやすテーマ」「知識を身に付けるテーマ」を学年ごとに設定している。『情報モラルハンドブック』（以下ハンドブック）は相模原プランに

併せて、道徳の授業で扱う「心をたがやすページ」、学級指導や教科領域等で扱う「知識を身に付けるページ」で構成されている。「心をたがやすページ」には広島県教科用図書販売株式会社（広教）で作成している『事例で学ぶ Net モラル』の映像資料を読み物教材として掲載している。

また、教員用として解説書も作られている。解説書には「心をたがやすページ」の指導案やワークシート、情報モラルに関する資料集が掲載されている。

「心をたがやすページ」で使用できる発問画像、広教の映像資料などをまとめたものを、「授業用パッケージ」として学校のコンテンツサーバに格納しており、教室で情報モラル教育の授業を行うことができる。

Ⅰ. 研究授業、協議

平成27年度は、児童の実態に合わせたハンドブックの活用法やハンドブック以外の教材を使った情報モラル教育についてという視点で研究を行った。

研究を進めていく中で、小学校5年生を対象に情報モラルに関わる番組を活用した研究授業、協議を行った。

授業内容は「言葉に責任をもとう～どうつきあう 無料通話アプリ」である。

研究協議では、児童の現状に合った授業内容にはなっていたが、児童の経験値の差が大きく、理解度に差が生じた。情報という言葉が、デジタルのものを指すという意識が強く、児童にとって身近な文字や話し言葉というところに向きづらかった。教師側が情報モラルについてもっとしっかりと捉えておく必要があることなど、情報モラル教育の在り方についての意見などもあった。

Ⅱ. 情報交換

研究部の理事が『ハンドブック』を用いた授業や『ハンドブック』の学校内における使用状

況などについて情報を交換した。

年間計画の中に「情報モラル週間」を設定している学校が増え、情報モラル教育が広がってきていることがわかった。

ハンドブック以外にもさまざまな情報モラル教材がたくさんあり、それぞれどのような効果があるのかを話し合った。

3 成果

『情報モラルハンドブック』『解説書』が配布されたことで、相模原市の情報モラル教育に対する取り組みは広がりを見せている。その中で『ハンドブック』や『授業パッケージ』は、情報モラル教育の指導経験が少ない教職員にとって、指導案やワークシートが掲載されていたり、映像資料や発問が手軽に活用できたり、教材研究の一助となっている。

また、ハンドブック以外にもさまざまな情報モラル教材があり、児童の実態に合わせた教材を選択することが重要だと確認できた。

4 今後の課題

児童を取り巻く情報環境は今後さらに複雑化していくであろう。その中で情報モラル教育の必要性や重要性は今後さらに増してくることが予想される。

児童の実態に合わせた授業実践が必要となるが、情報モラルの根本をしっかりと見据えて、情報モラル教育の在り方を考えていく必要がある。

参考文献

『事例で学ぶ Net モラル』

(広島県教科用図書販売株式会社)

<http://www.hirokyou.co.jp/netmoral/>

『情報モラルハンドブック』

『情報モラルハンドブック解説書』

(相模原市教育委員会)